

GCI

2019 Interim Business Report

第103期 中間報告書
2019年4月1日～2019年9月30日

群栄化学工業株式会社

証券コード：4229

01 トップインタビュー



03 連結決算 ハイライト



06 CSRへの 取り組み



05 ニュース& トピックス

Kynol
KYNOL EUROPA GmbH

New office
A-GCI
American GCI Resitop, Inc.

GCI
群栄化学工業株式会社
Gun Ei Chemical Industry Co., Ltd.
株式会社ビッグトレーディング
東北ユーロイド工業株式会社

TGCI
Thai GCI Resitop Company Limited

IG
India GCI Resitop Private Limited



さらなる成長に向けた課題に取り組み、 ステークホルダーにとって 魅力的な会社へ。



代表取締役 社長執行役員
有田 喜一郎

このたび日本列島を襲った台風により被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。皆様の安全と被災地の一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。

Q

上期の営業状況と決算内容をご説明願います。

A

化学品事業は、電子材料向け樹脂において低メタル化素材など高付加価値製品の採用が進んだものの、住宅及び自動車関連向けの需要が伸び悩み、全体のボリュームは想定を下回る状況となりました。特に自動車市場や電子部品市場では、米中貿易摩擦による影響が拡がり、国内のみならずタイやインドにおいても先行きは不透明な状況が続いております。

そうした中、注力製品であるノボロイド繊維「カインール」については、環境保全に寄与する活性炭や航空機用難燃性シートなどの需要が高まり、堅調な伸びを示

しました。また、次世代3Dプリンター用の砂である「CCS（キャタリストコーテッドサンド）」は、群馬工場の量産ラインが稼働し、本格展開を開始しました。本年4月には、本誌5頁にご報告のとおり、当社と国家プロジェクト参加の関係各社で開発した超高速砂型積層造形装置が日刊工業新聞社主催の第48回日本産業技術大賞にて、審査委員会特別賞を受賞いたしました。

食品事業は、糖化製品が持ち直したことから、販売実績は前年同期を上回りましたが、汎用品の安価競争は継続しており、収益環境は依然厳しい状態が続いています。

費用面では、化学品事業・食品事業ともに原材料価格の上昇傾向が落ち着いてきましたが、物流費については依然として高止まりが続きました。

以上により上期の連結業績は、売上高が136億27百万円（前年同期比0.7%減）となりましたが、利益については、電子材料向け樹脂における高付加価値製品の販

売増や海外子会社の収益改善などにより想定を上回り、営業利益10億68百万円（同17.9%増）、経常利益11億63百万円（同15.5%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益8億3百万円（同14.3%増）となりました。



グローバル展開の強化について お聞かせください。



当社は、フェノール樹脂のASEAN展開を担うタイ子会社、RCS（レジンコーテッドサンド）の現地製造販売を行うインド子会社、カイノールの欧州での販売を担うドイツ子会社に加え、ブレーキ用特殊フェノール樹脂「ミレックス™」の販売を行う米国イリノイ州の子会社が2019年4月に本格始動し、全米展開への一歩を踏み出しました。

こうした海外拠点の拡大に合わせて、今後のグローバル展開においては、各子会社がそれぞれの地域のニーズを的確に捉え、それを日本での開発にフィードバックし、現地市場に受け入れられる製品を製造・販売していく流れをより強化していきます。

当社は、そのために必要なグローバル人材を育成すべく、語学教育にも注力し、同時に現地スタッフに対しても業務のレベルアップに向けた取り組みを拡げていく方針です。



業績を改善し、さらなる成長を実現するための課題は？



さらなる成長の実現には、先に述べました「グローバル展開の強化」に加え、「食品事業の構造改革」「電子材料向け分野の拡大」「CSRへの取り組み」の推進が不可欠であると考えています。

食品事業は、前々期および前期における原材料価格の高騰を受け、収益性の悪化を招きました。現在、これを改善すべく販売価格への適正な反映を進める一方、製造設備の改良により生産性を高め、コスト増による影響を緩和していく対応を図っています。

その上で、従来の汎用品主体から機能性製品へシフトすべく、食品アプリケーションの開発やレシピ提案を行う「GCIプラザ」を活用した食品メーカーへのアプローチを強化し、協業展開につなげていきます。高齢者の栄養摂取への活用や、食品ロスを抑止する賞味期限の延伸効果など、「糖」によるさまざまな社会課題解決も考えられ、市場の広がりが期待できると思います。

電子材料向け分野では、とどまることのない技術革新を常に捉え、低メタル化や高集積化などの最先端ニーズ

に対応していくことが求められます。技術開発の強化と戦略投資による設備増強を両輪として、引き続き高品質・高付加価値で安定した製品を供給できる体制を築き上げていきます。

CSRへの取り組みによる事業成長については、化学物質による環境汚染を防止し、人体や生態系への影響を最小化する「グリーンケミストリー」の流れを捉え、バイオマス由来の樹脂や低揮発性の樹脂など、環境配慮型製品の開発に注力していきます。SDGsの考え方を経営に取り入れ、化学品事業と食品事業の双方の技術を活かした価値提供で成長機会を捉えながら、持続可能な社会づくりに寄与してまいります。



下期の展望と通期の見通しは いかがですか？



上期の業績は増益となったものの、足もとでは各市場とも不透明感が高まっており、下期は見通し困難な状況が続くと思われます。その中で当社は、先端材料を中心に化学品の安定供給に努めながら、物流費の高止まりに対応した合理化施策を実施し、コストダウンによる利益改善を進めていきます。また今後は、中長期の視点から全社の生産性を高めるべく、ITやビッグデータを活用した省人化・合理化に取り組み、人材をより付加価値の高い業務にシフトしていく考えです。

以上を踏まえ、通期の連結業績については、売上高288億円（前期比4.2%増）、営業利益16億円（同0.9%減）、経常利益18億円（同2.0%減）、親会社株主に帰属する当期純利益12億円（同2.0%増）を予想しています。



株主の皆様へのメッセージを お願いします。



ここまでお伝えさせていただいたとおり、さらなる成長に向けた課題は明確になってきています。当社は引き続き、グループ一丸となってそれらの課題に取り組み、厳しい環境下でも中長期的な発展を遂げることができる会社、全てのステークホルダーにとって魅力的な会社を実現してまいります。そして、単に業績を追求するだけでなく、サステナブルな社会に貢献すべく、特にSDGsの視点を通じて社員の意識を変え、それを事業の持続的成長につなげていきたいと考えています。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

連結決算ハイライト（当中間期の業績）

売上高
13,627百万円
(前年同期比0.7%減)



経常利益
1,163百万円
(前年同期比15.5%増)



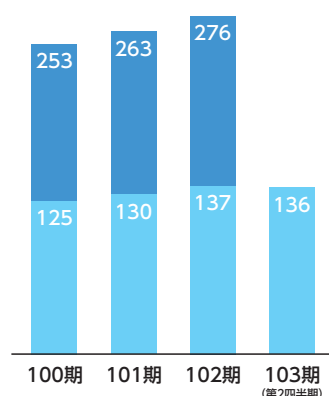
親会社株主に帰属する四半期純利益
803百万円
(前年同期比14.3%増)



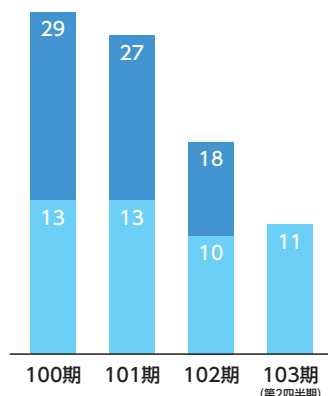
業績の ポイント

- ポイント 1** 新規顧客の獲得など積極的な販路開拓を進めたものの、市場の冷え込みなどの影響を受け減収。
- ポイント 2** 高付加価値製品の拡販や海外子会社の収益改善等により、営業利益・経常利益・親会社株主に帰属する四半期純利益は増益。

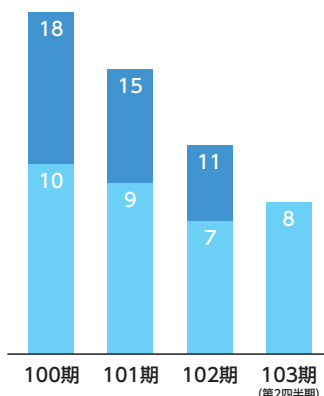
売上高 (単位:億円)



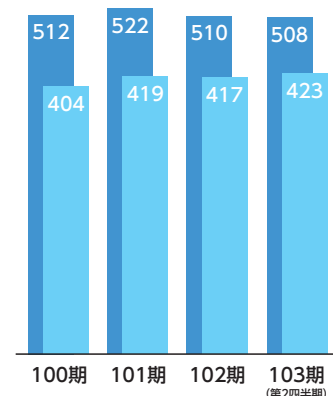
経常利益 (単位:億円)



親会社株主に帰属する
四半期(当期)純利益 (単位:億円)



■総資産 ■純資産 (単位:億円)



連結財務諸表

Consolidated Financial Statements

連結貸借対照表（要約）

(単位:百万円)

科 目	当第2四半期 連結会計期間末 (2019年9月30日現在)	前期末 (2019年3月31日現在)
資産の部		
流動資産	19,661	20,044
固定資産	31,178	31,004
有形固定資産	19,073	19,185
無形固定資産	613	679
投資その他の資産	11,491	11,139
資産合計	50,839	51,048
負債の部		
流動負債	6,198	6,528
固定負債	2,318	2,774
負債合計	8,517	9,302
純資産の部		
株主資本	39,860	39,334
資本金	5,000	5,000
資本剰余金	25,690	25,690
利益剰余金	14,645	14,118
自己株式	△5,474	△5,474
その他の包括利益累計額	976	948
非支配株主持分	1,485	1,463
純資産合計	42,322	41,746
負債・純資産合計	50,839	51,048

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結損益計算書（要約）

(単位:百万円)

科 目	当第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)	前第2四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)
売上高	13,627	13,730
売上原価	10,657	11,056
売上総利益	2,970	2,673
販売費及び一般管理費	1,901	1,767
営業利益	1,068	906
営業外収益	125	137
営業外費用	31	36
経常利益	1,163	1,007
特別利益	131	1
特別損失	159	30
税金等調整前四半期純利益	1,135	978
四半期純利益	871	764
親会社株主に帰属する四半期純利益	803	703

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

●ホームページのご案内

ホームページでは、当社の企業活動全般の情報や、株主・投資家の皆様向けの情報として、決算発表資料等を適時掲載しております。

群栄化学

検索

<https://www.gunei-chemical.co.jp>

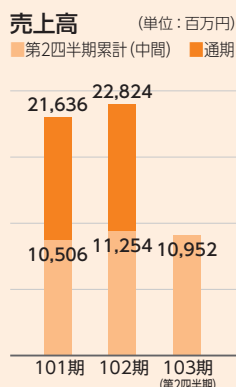
化学品事業

合成樹脂・高機能繊維の
製造及び販売

- ▶ 電子材料向け高付加価値製品が
堅調に推移するも、住宅・自動車
関連向け等が低調に推移

売上高 **10,952**百万円
(前年同期比2.7%減)

営業利益 **1,056**百万円
(前年同期比10.6%増)



■高機能繊維「カインール」



「フェノール樹脂」を繊維にした高機能繊維「カインール」は、宇宙開発の研究から生まれ、当社が世界で唯一製造・販売しています。

防炎性、耐熱性、断熱性、耐薬品性などの特長を有し、防災・安全用途や各種複合材に用いられるほか、活性炭繊維の優れた吸着性は溶剤回収用途等の環境調和分野にも使用されています。

当社の主要製品

■工業用フェノール樹脂「レゾトップ」



電子半導体材料・自動車産業・住宅産業などあらゆる産業分野に不可欠な機能材料として使用されています。

主な用途

電子材料産業においては、シリコンウェハーに回路を形成する際に用いられるフォトリソグレイスや半導体封止剤などに「フェノール樹脂」が活用されています。自動車等の各種鋳物産業においては、鋳物の鋳造に使われる砂型のバインダとして、「フェノール樹脂」は鋳造業界で欠かせない存在となっています。



住宅産業においては、ガラス繊維に「フェノール樹脂」を吹き付けてできる繊維マットが断熱・防音材として用いられるなど、住宅の施工に広く使われています。

■3Dプリンタ用材料

3Dプリンタは世界各国で国家プロジェクトにより活発な開発が進められており、当社は、日本の国家プロジェクト（2013年から2018年）に参画しました。鋳物業界で長年培ってきた当社の技術は鋳造用バインダ用途に活用されています。また、高耐熱プラスチック材料製品を自社開発し、製造販売及び成形品の提案も行っています。

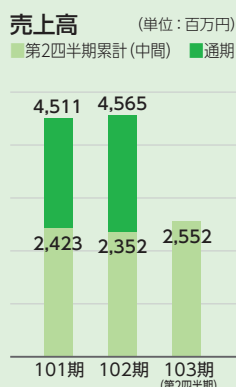
食品事業

でんぷん糖類の
製造及び販売

- ▶ 糖化製品が持ち直し、
売上高は堅調に推移

売上高 **2,552**百万円
(前年同期比8.5%増)

営業損失 **69**百万円
(前年同期比 -)



■保水性糖質素材「ピュアトース®」

「ピュアトース®」は、主成分であるマルトトリアースが水を保持しやすい構造をしており、このため食品中の水を安定化させます。その結果、和菓子や洋菓子に対し、しっとり感を付与し、でんぷんが老化して硬くなる現象を抑制し、素材の風味を向上させることができます。現在、本品はこれらの用途で幅広く利用されています。



当社の主要製品

■スリーシュガー（JAS果糖ぶどう糖液糖／JASぶどう糖果糖液糖）

JAS果糖ぶどう糖液糖（果糖分55%）、JASぶどう糖果糖液糖（果糖分42%）、そしてこれらに砂糖を混合した異性化液糖製品があります。砂糖よりさわやかで保湿性も高く、食品を新鮮に保つことができます。また、冷たいほど甘味が強くなるので、清涼飲料や冷菓に最適です。

■コーソグル群栄（JAS精製ぶどう糖）

JASの基準に合致した、高品質、高純度のぶどう糖です。砂糖や果糖とも相性よくとけあい、栄養価が高く、直接体内に吸収されるため、すぐれたエネルギー源となります。各種菓子類をはじめ、水産練製品、酒類、医薬品など、幅広くご使用いただけます。

■酵素水飴

当社独自の技術で製造された水飴は、ほどよい甘みと独特の粘りが特徴で、菓子などのデリ、ツヤ、コクを出すのに最適です。見た目のおいしさがアップするだけでなく、菓子類の日持ちをよくします。

■グンエイオリゴS

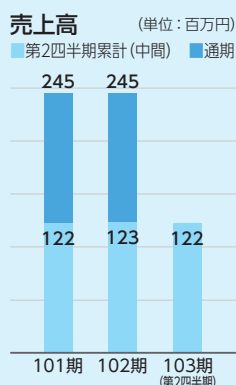
単糖が数個結びついたオリゴ糖は、人間の消化酵素ではこの結合を切ることができないために大腸に到達し、代表的な善玉菌のビフィズス菌の増殖を助けます。当社のイソマルトオリゴ糖は、こうした生理効果を有しながら、うま味、コク味をもち、健康ニーズにお応えしています。

不動産活用業

- ▶ 売上高は前年同期並みで
堅調に推移

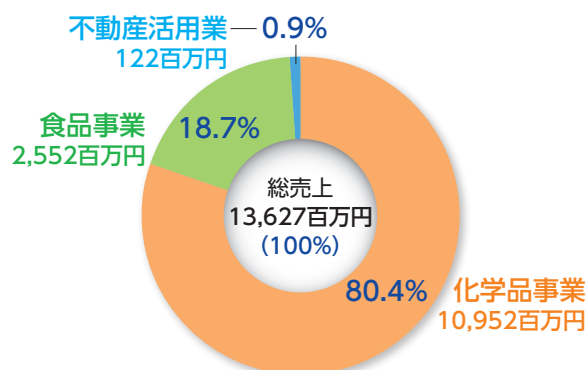
売上高 **122**百万円
(前年同期比0.7%減)

営業利益 **82**百万円
(前年同期比1.5%減)



事業別売上高構成（連結）

2019年4月1日～2019年9月30日



日本産業技術大賞『審査委員会特別賞』受賞

当社は、2019年4月に国立研究開発法人 産業技術総合研究所、シーメット株式会社、及び伊藤忠セラテック株式会社と共に「超高速砂型積層造形装置」で日刊工業新聞社主催の「第48回日本産業技術大賞」の“審査委員会特別賞”を受賞いたしました。日刊工業新聞社では、日本の産業社会の発展に貢献した技術成果を日本産業技術大賞として毎年表彰しております。当社と各社で開発した超高速砂型積層造形装置では、これまでにない高速造形を実現するものとして高く評価され、今回の受賞にいたしました。

今回の受賞を励みとし、今後も日本のものづくり産業を支える材料開発に積極的に取り組んでまいります。

超高速砂型積層造形装置とは？

自動車部品等の製造に欠かせない「鋳型」を3Dプリンタで高速造形する装置のことです。本装置において、当社は鋳型材料の開発担当企業として、さらさらとした流動性を持つ「キャタリストコーテッドサンド」を新たに開発し、積層造形の高速化に大きく貢献いたしました！



キャタリストコーテッドサンド



受賞した盾と賞状



環境配慮型バインダー

化学技術と食品技術の融合 環境配慮型バインダー開発

ガラス繊維などを用いた建材用断熱材には、古くからフェノール樹脂が使われておりますが、環境面で放散ホルムアルデヒドの課題がありました。

この度、当社は、長年培ってきた化学と食品の技術を融合し、ホルムアルデヒドを全く含まない“環境配慮型バインダー”の開発に成功いたしました。ホルムアルデヒドを全く使用していないため、断熱材製造工程における臭気低減などの作業環境改善、さらには、建材としての高い安全性が期待されます。また、主原料が天然物由来のため、石油系バインダーに比べ二酸化炭素排出量の削減が期待されます。

当社のお客様からも、「ホルマリン臭が無いから作業環境が改善された」「断熱材として柔軟性に優れ施工しやすい」等、環境面と機能面で高いご評価をいただいております。

今後も化学技術と食品技術を活かした環境配慮型製品の開発に努めてまいります。

American GCI Resitop, Inc. 始動！

2019年4月1日より、American GCI Resitop, Inc. (以下A-GCI) の販売事業が本格始動いたしました。摩擦材用特殊フェノール樹脂「ミレックス™」の販売拠点として設立したA-GCI(当社100%子会社)。当社はこれまでにタイ・インド・ドイツに海外展開しており、今回のアメリカ進出で販売ネットワークをさらに広げ、アメリカ市場のマーケティングにも力を入れ、国内及び海外4拠点で連携し、顧客サポートの拡充と新規成長市場の探索を推進してまいります。



A-GCI 受付

GCI Global Network



ミレックス™とは？

柔軟性・優れた熱安定性・低吸湿性・耐薬品性を有する摩擦材用特殊フェノール樹脂で、主に自動車のブレーキパッドのバインダーとして使われております。ブレーキ制動時の「鳴き」「振動」を抑え、自動車に乗る人々の不快感を低減いたします！



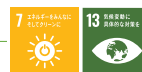
特殊フェノール樹脂

Milex™
ミレックス™

GCIグループのSDGs

わたしたちGCIグループは、SDGsの目標達成に貢献するべく、重点課題を設定しこれに取り組んでまいります。

重点課題 1 地球環境の保護

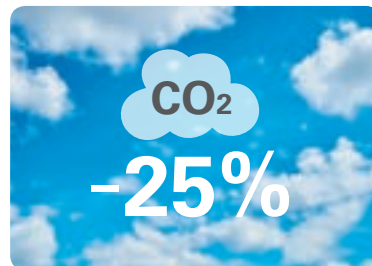


私たちが住む地球は生命の根源です。

3R (Reduce、Reuse、Recycle) 活動の実践により、地球温暖化対策を含んだ循環型社会の実現へ向けて活動します。
『GCIグループステークホルダー方針』より

● 継続的な省エネ活動の展開

当社では、2007年度の天然ガスへの燃料転換を皮切りに、NEDOやESCOなど様々な制度を活用しながら省エネ・CO₂削減活動に取り組み、2018年度には2006年度比25%の大幅なCO₂排出量削減を実現いたしました。最近では、群馬工場ボイラー設備の一部を燃焼効率が極めて高いタイプへ更新、工場管理棟では外断熱化、及び空調・照明の高効率化なども進めております。当社では、今後も更なる省エネに向けた改善活動を継続してまいります。



● 環境配慮型製品の開発

当社はこれまでに環境配慮型製品として植物由来原料を利用した熱硬化性バイオマス樹脂などを開発し、自動車部品やタイヤ用途等にご採用いただいております。最近でも、前頁ニュース&トピックスにて詳しく触れているように断熱材市場向けに環境配慮型製品の投入を開始するなど、積極的なチャレンジを続けております。当社では、今後も環境性能と機能性を兼ね備えた新たな製品の開発に取り組んでまいります。

重点課題 2 地域との共存



地域社会はGCIグループの事業基盤です。地域との関わりを大切にしてその発展に貢献します。
『GCIグループステークホルダー方針』より

● 自治体等との連携

高崎市において市民団体・事業者・行政などの間で協働関係の構築・向上を目指すたかさ環境パートナーシップ会議、及び群馬県におけるSDGsの普及への寄与を目的とするSDGsぐんま連絡会議活動への参加を通じて地域との連携を図っていきます。

● 五創共栄会

同会は2009年に地域貢献を目的に設立され各種活動を行っております。今後、同会でもSDGsの概念を取り込んだ活動を展開してまいります。



五創共栄会

Topics
トピックス

目指しているのは森の中の工場

当社では敷地内の緑化を通じた環境負荷低減活動にも力を入れております。工場は緑にあふれ、敷地内には人工池や庭園もあり、従業員の憩いの場となっております。

SDGsとは

国連で合意された2030年までの世界的な優先課題及び世界のあるべき姿を定めた世界共通のゴールをいい、17の目標と169のターゲットで構成されます。SDGsと当社グループの事業は密接な関係にあり、企業としての「収益性」と社会の課題を解決する「社会性」を両立させる事業展開をすることで、これらの課題解決に取り組んでまいります。



会社の概要

商号	群栄化学工業株式会社 Gun Ei Chemical Industry Co., Ltd.
設立	1946年1月23日
資本金	50億円
従業員数	480名(連結)

役員

代表取締役会長	有田 喜一	常勤監査役	瀧井 康雄
代表取締役 社長執行役員	有田 喜一郎	監査役	二宮 茂明
取締役	湯浅 快哉	監査役	塚田 和男
取締役	岩淵 滋		
取締役	田村 正明		

(注) 取締役 岩淵滋、田村正明の両氏は社外取締役であります。
監査役 二宮茂明、塚田和男の両氏は社外監査役であります。

株式情報

Stock Information

(2019年9月30日現在)

株式の状況

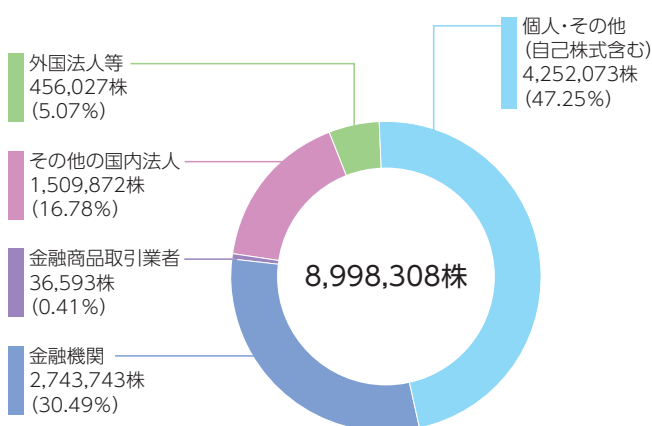
発行可能株式総数	17,621,100株
発行済株式総数	8,998,308株
株主総数	5,478名

大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
三井化学株式会社	618,500	8.93
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	552,500	7.97
群栄化学取引先持株会	506,742	7.31
株式会社群馬銀行	304,512	4.39
株式会社横浜銀行	245,853	3.55
三菱UFJ信託銀行株式会社	232,700	3.36
東京応化工業株式会社	168,330	2.43
株式会社みずほ銀行	160,537	2.32
株式会社三井住友銀行	158,407	2.29
日本生命保険相互会社	157,289	2.27

(注) 持株比率は、自己株式(2,069,425株)を控除して計算し、小数点第3位を四捨五入しております。

所有者別株式分布状況(株式数)



(注) 持株比率は、小数点第3位を四捨五入しております。

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 電話0120-232-711 (通話料無料)
同連絡先	〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
上場証券取引所	東京証券取引所
公告方法	電子公告 URL https://www.gunei-chemical.co.jp ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載
幹事証券	野村證券株式会社 みずほ証券株式会社 SMBC日興証券株式会社

(お知らせ)

1 ご注意

- (1) 株主様の住所変更、配当金の振込みのご指定、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- (2) 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、特別口座の口座管理機関である三菱UFJ信託銀行にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店においてもお取次ぎいたします。
- (3) 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

2 中間配当金計算書について

同封いたしております「中間配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づき作成する「支払通知書」を兼ねております。配当金をお受取りになった後の配当金額のご確認や確定申告の資料としてご利用いただけます。

なお、配当金を証券口座でお受取り(株式数比例配分方式)の株主様は、お取引のある証券会社へご確認ください。

3 マイナンバーのお届出について

2016年1月より利用開始されたマイナンバーですが、こちらは株式の税務関係手続きでも必要となります。このため、株主様はお取引の証券会社等へマイナンバーのお届出をお願いいたします。

【株主様のマイナンバーの利用用途】
税務署に提出する支払調書(※)への記載
※配当金等に関する支払調書
単元未満株式の買取請求など株式の譲渡取引に関する支払調書

【マイナンバーのお届出に関するお問い合わせ先】

●証券口座にて株式を管理されている株主様
お取引の証券会社までお問い合わせください。

●証券会社とのお取引がない株主様
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
0120-232-711 (通話料無料)